

ごあいさつ



(左)
代表取締役会長
澤部 肇

(右)
代表取締役社長
上釜 健宏

Faster Expansion Bursting With Value

成長を続けるための「二つの取り組み」を「二人三脚体制の経営」で進める

TDKは澤部・上釜の「二人三脚体制の経営」により、「モノづくりの現場を常に顧客視点から考え、日々の改善と強化を通じて収益性を高める」そして「得た利益を、積極的に自らの強みを活かせる分野に振り向ける」という、二つの取り組みを行ってきました。この二人三脚の経営は言うならば、CEOである澤部がこれまで培った経営手腕を活かし今後も経営効率の改善と事業拡大のための舵取りを行う一方で、COOである上釜がモノづくり力の強化を通じて各事業の収益体質を磐石にさせてゆくことと表現できます。

厳しい経営環境のなかで当期純利益は過去最高益を達成

2008年3月期、新興成長市場での需要拡大等を背景にエレクトロニクス市場自体が拡大するなかで、TDKの主要市場である電子部品の需要も拡大しました。その一方で、期中の資源価格の高騰や為替の変動がTDKの収益面にマイナスの影響を与えましたが、通期ではこれらのマイナス要因を吸収する形で過去最高の当期純利益を達成することができました。収益面が好調だった理由の一つには、記録メディア事業の構造改革の成果があげられます。ここ数年取り組んできたTDKの記録メディア事業は当期の取り組みをもってほぼ完了となります。今後はこれまで当該事業を通じて培ってきた技術やノウハウをさまざまな分野に活かしてゆく所存です。

さらなる成長に向けて、スピードを重視した事業展開を進める

人々が生活に省エネルギー、ユビキタス、安全・安心を求め、エレクトロニクス産業は技術進化を伴いながらそれらを可能にし、そして成長する産業であると私達は考えています。しかし同時に、優勝劣敗が早期に明確に決する厳しい産業でもあることから、市場環境や競争環境を常に注視し、その動向を察知し、変化に対応してゆかなければなりません。TDKでは現在「モノづくり力を強化し、お客様と共に成長する」を合い言葉に事業の改善を進めています。これは厳しい経営環境でもTDKが電子部品メーカーとして持続的な成長を果たしてゆくためには、付加価値の源泉であるモノづくりの強化を図り、お客様のニーズに応えることのできる体質でなければならないと考えているからです。また、正しい施策であってもタイミングが遅れては事業機会を逃すことにもなりますので、事業展開そのもののスピードアップを図ってまいります。

創造によって文化、産業に貢献する—このTDKの創業の精神は今も変わることはありません。TDKは今後も電子部品メーカーとして、高い創造性をもって価値を伴った成長を続け、成長を通じて世界の文化、産業の発展に貢献したいと強く願っています。成長をめざしてスピードを重視した事業展開を進めるTDKに、これからもどうぞご期待ください。

2008年7月

澤部 肇 上釜 健宏

代表取締役会長
澤部 肇

代表取締役社長
上釜 健宏